

## 研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-83C	17-020	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 三浦克之
<b>題名 (原題/訳)</b>		
Alcohol consumption and cigarette smoking in combination: A predictor of contralateral breast cancer risk in the WECARE study. 飲酒と喫煙の併用：WECARE 研究における対側乳がんリスクの予測因子		
<b>執筆者</b>		
Knight JA, Fan J, Malone KE, John EM, Lynch CF, Langballe R, Bernstein L, Shore RE, Brooks JD, Reiner AS, Woods M, Liang X, Bernstein JL; WECARE Study Collaborative Group.		
<b>掲載誌</b>		
Int J Cancer. 2017 Sep 1;141(5):916-924. doi: 10.1002/ijc.30791. Epub 2017 May 31.		
<b>キーワード</b>	<b>PMID</b>	
アルコール、症例対照研究、対側乳がん、喫煙	28524234	
<b>要 旨</b>		
<b>目的：</b> 乳がんは、世界中の女性において最もよくみられるがんである。先進国では生存率が高いが、その分、乳がん生存者における二次発がんの問題が増加しており、対側乳がん(CBC)が最も多い二次発がんである。CBC リスクを減少させることが重要な課題であるが、初発の乳がんリスク因子である飲酒と喫煙の情報を診断時に得ていることが CBC の予測に貢献する可能性がある。本研究の目的は初発診断時の飲酒と喫煙に関する調査を行い、これらが CBC 予測因子になるか検討することである。		
<b>方法：</b> 女性乳がん患者を対象とした大規模人口集団ベースの症例対照研究 (The Women's Environment, Cancer and Radiation Epidemiology: WECARE) による。非同期 CBC 群が 1,521 名、生存期間やその他の因子をマッチさせた片側性乳がんである対象群が 2,212 名。多変量条件付きロジスティック回帰分析を用いて、CBC リスクと飲酒・喫煙との関係を罹患率比と 95%信頼区間(CI)として算出した。その際、治療、疾病の特徴、その他の因子で調整を行った。		
<b>結果：</b> 初発乳がん診断時に現在飲酒あるいは現在喫煙であることは CBC リスクと若干の関連を認めたが、CBC のリスク上昇は主に両方 (飲酒と喫煙) に曝露した女性で認めた (RR=1.62,95%CI 1.24-2.11)。また診断後両方続けていることもリスクを上昇させていた (RR=1.54,95%CI 1.18-1.99)。飲酒と喫煙の消費量に関する詳細なデータを有する対象者において解析した結果、診断後平均 10 本/日以上喫煙が CBC リスク上昇と関連していた (RR=1.50,95%CI 1.08-2.08;p-trend=0.03)。		
<b>結論：</b> 乳がんと診断された女性において、飲酒と喫煙の情報は CBC リスクの予測に有用であった。飲酒も喫煙も両方行う女性は CBC リスク低減のための生活習慣介入の利益を受けることが示唆された。		